

令和2年度第1回山武市まち・ひと・しごと創生戦略会議 議事概要

1. 会議概要

- ・ 日 時 令和2年11月26日（木）午前10時00分から午前11時20分
- ・ 場 所 山武市役所 第5会議室
- ・ 出席委員 齊藤委員（副座長）、三槇委員、小山委員、石井委員、那須委員、佐藤委員、堀井委員、井上委員、新村委員、若海委員、山本委員、寺澤委員（座長）、【計12名】
- ・ 欠席委員 善塔委員、大高委員、笹生委員、【計3名】
- ・ 事務局 石橋総務部長、中村企画政策課長、依田副主幹、杉浦主査、小川主事【計5名】

2. 議事（1）第1期山武市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について

事務局説明

- ・ 事務局から、【資料1-1】及び【資料1-2】を用いて、第1期戦略の実績報告について説明。
- ・ 達成状況は下記のとおり
 - ・ 基本目標：7つの数値目標のうち達成1つ、未達成5つ、未公表1つ
 - ・ 主な重要業績評価指標（KPI）：13のKPIのうち達成は7つ、未達成は6つ

委員質疑及び対応

- ・ 基本目標1の数値目標「年間観光客入込数」は、令和元年度191.6万人とあるが、魅力度最下位でこれだけの集客ができるとは考えられない。魅力度というより知名度の問題だと考えるがどうか。
⇒合併により旧町村と山武市が結びついていないと感じている。山武市の読み方を始め、旧町村の地名と名産や観光地とのつながりは連想されても、山武市という認識につながっていないと感じている。山武市の知名度を向上させるためPRに力をいれる旨、回答。
- ・ 基本目標1の数値目標「年間観光客入込数」について、魅力度ランキングは「観光」で決まるのか。
⇒魅力度ランキングは、株式会社ブランド総合研究所が毎年実施している全国3万人の20代から70代までのインターネットによるアンケート調査。調査対象は魅力度のほかに認知度、観光意欲度、その地元にある製品の購入意欲度などがランキングの対象になっている。アンケートの性質から、山武市の知名度によりランキングに影響が出ていると考えられる旨、回答。
- ・ 基本目標3の数値目標「合計特殊出生率」について、令和元年度は0.95と低い数値であるが、出生率低下の要因や今後の具体的な施策について、どのように考えているのか。
⇒山武市は、15歳から49歳までの女性の人口が減少している状況である。また、他の県内自治体と比べ、40-49歳の出生率が低い傾向にある。本市では子育て支援として、こども園・子育て支援センターを始め、第3子以降の保育料無償化、高校生までの医療費無償化などに取り組んでいるが、その政策が市民に届いていないと感じている。子育て支援政策のPR強化を検討する旨、回答。

3. 議事（2）地方創生推進交付金の活用状況について

事務局説明

- ・ 事務局から、【資料2】を用いて、交付金の活用状況について説明。
- ・ 下記のとおり、交付金事業についての取り組み状況を報告。

- ・ 成田空港南側圏グローバル人材育成事業
⇒ 今年度末で交付金活用終了。順調に取り組が進んでいる。
- ・ 山武市エコノミックガーデニング推進事業
⇒ 昨年度末で交付金活用終了。3つのKPIのうち達成が1つ、未達成が2つとなった。
一部のKPIが目標値に達しなかったものの、地方創生に相当程度効果があった。

委員質疑及び対応

- ・ 来年度以降、地方創生推進交付金はどうなるのか。
⇒ 制度上、同じ事業を同じ内容で引き続き申請することはできないため、実施中の事業成果等を踏まえ、現在、来年度の地方創生推進交付金の採択に向けて申請書の計画を練っている旨、回答。
- ・ なぜエコノミックガーデニング推進事業は昨年度申請しなかったのか。
⇒ 令和元年度時点で検討した結果、エコノミックガーデニング推進事業については申請を見送ることになった。新たな事業展開を検討しているが、具体的な事業内容がまとまっていないため、まとまった段階で、地方創生推進交付金については検討していくことになっている。担当課であるわがまち活性課と調整をはかりながら進めている旨、回答。

4. その他（ご意見等）

委員質疑及び対応

- ・ 農業関連について、5年間で90名ほどの新規就農者や新規参入があるが、農地と家がなかなか見つからない等の理由もあり、就農後の定着促進が難しい状況。市では空き家バンクを開設しているが、現在登録物件がない、機能しているのか。
⇒ 空き家バンクについては、募集をかけているが登録がない状況。現状として登録することに抵抗を感じる方が多いと聞く。こういった状況を踏まえ、現在、担当課である都市整備課で委託団体のほうに積極的に登録の働きかけをするよう指示するなど、空き家対策に取り組んでいる旨、回答。
- ・ 山武市外だけでなく、山武市内へのアピールもお願いしたい。市内に住んでいても知らないことが多い。広報紙を通して山武市に魅力があることをわかりやすく、おもしろく伝えていただきたい。
⇒ 現在広報紙については、新聞折り込みによる配布をメインに行っているが、最近では新聞購読者が減少傾向にあり、全戸配布に至っていない状況である。今後は、広報紙の内容を充実させるとともに、全世帯に配布ができるような方法を検討し実施していく旨、回答。
- ・ 山武市の魅力度ランキング最下位は、全国に名前を売る良い機会となった。順位を上げるというよりは、これを上手く活用すべきと考える。行政は行政なりのやりかたで攻め、民間は民間で一人ひとりがこの機会に山武市の知名度をあげる活動をすすめてもいいのではないかと考える。
⇒ 官民一体で取り組んでいきたい旨、回答。
- ・ 城西国際大学では、今年度から大学全体で、学生を地域に出し、学生が主体となって地域の課題解決に取り組む域学共創プロジェクトを実施している。山武市の取り組みに、学生を参加させ、子育て支援や出生率の問題と一緒に調査・研究をすることで、この地域を知ってもらい、学生がこの街に定着し就職する支援ができればと考える。
⇒ 今後、検討していきたい旨、回答。

- 今年度の県立高校入試では、千葉県内で37学級減となる。成東高校についても普通科が1学級減となる。千葉市から遠い地域から学級減や統廃合が進んでいる。また、市内某中学校では、受験生の半数が都市圏の学校を希望していると聞く。地元の高校を出ないということは、地元に残る人も減と考えている。この地域に人材を残せるよう取り組んでいきたい。

⇒連携して取り組んでいきたい旨、回答

以上